

＜参考＞グループワークで出た意見一覧

テーマ1 「自分の理想の“つながる場”」

＜入りやすく多様なコミュニティ＞

- コミュニティがあっても、どうしていいかわからない、入りづらい人が多いのではないかと。集まりやすい、入りやすいコミュニティが理想。
- 薬局が主催している折り紙教室などでは、気軽に参加できるようにお店のものを買わなくても参加できるようになっている。縛られないゆるさが重要ではないか。
- 多世代の人たちと関われる場、継続・持続可能なコミュニティが理想。参加するのに敷居が低い方がよい。
- 敷居が低い、0歳から100歳まで誰もが入れる、持続できるコミュニティが良い。
- 複数のコミュニティを行き来して、いろいろなコミュニティに参加したい
- 子供から高齢者までいろいろな選択肢がある、自由度が高いと良い。

＜多世代のつながり＞

- 子供がいる人は、子供の面倒を近所の大人や高齢者等が見てくれて、ゆっくり食事ができるような集まれる場所があると良い。
- 地域ぐるみで子育て支援を行い、育った子供が「自分たちが育てた」といえるような地域だと良い。

＜文化・観光 交流＞

- 外国から来た人が、もっと自然な形ですみだの良さを知る機会があると良い。
- 川沿いで音楽イベントを自由に開催できれば、普段かかわりのない人と気軽に話す機会を提供できるのではないかと。

＜その他＞

- 定期的な集まりに参加することで、それを楽しみにして外出することが増え、しばらく来ない人がいるとそれが安否確認になったりする。
- まちには多様な人が住んでいるが、お互いを知る機会がないので、お互いを疑わしい目で見ることがある。お互いを知ることができる場があればより良い関係を創っていけないのではないかと。
- 「何かを売る・買う」でなく、「人とどう出会えるか」という場を重視したい。
- 学生など外部の人とコラボして何かをするというのが理想。
- 町会やイベントを結び付け、コミュニケーションを図りたい。
- 墨田区という大きなコミュニティの中で小さいコミュニティ同士をどうつなげていくか、そして、それがつながった先が理想ではないかと。

テーマ2 「“つながる場” づくりにおける課題、困難なこと」

<人材・仲間作り>

- 仲間づくり、継続が難しい
- 人間関係をどう整えていくか、好き嫌いが起きてしまうと場づくりができない。
- 場所がすでにあっても新しくそこに入っていきっかけをつくるのが難しい。
- コーディネートできる人がいない。
- 町会の高齢化、若い人、会社勤めの人たちが参加してくれない。

<場所・資金>

- ハード面で場所やお金の確保が課題。
- 場所・人・お金の問題
- 場所について、築年数が古い建物などを有効活用したくても防災の面から難しいという問題がある。
- 町会で、4年間にお祭りの寄付金が100万円減っている。模擬店等で収入を得ているが、寄付の減少による先細りは変わらない。結局、コミュニティを続けるにはお金が大事になってくる。

<情報の収集・発信>

- 情報をほしい人／ほしくない人の線引き、セキュリティや個人情報の問題、
- エキスパートな人や支援をする機関もあるが、ほしい情報が届かない。情報を得たいがどうしたらよいかわからない。
- ボランティアで活動をしていても毎回同じ人からの依頼しか来ない。情報発信・拡散が難しい。
- 人集めが課題であるが、初めはハードルを上げずに、小さくても成功だといえるよう背丈を低くすることが大切ではないか。

<その他>

- 年代によって悩みが異なる。若い人であれば体は動くが、お金がない。子育て世代は子どもを見てもらわないと体があかない。高齢者であれば体はあいているが、力仕事等は難しい。それらを解決していく必要がある。
- 訪日外国人で、墨田区に来て宿泊しても、翌日は富士山などへ遠出してしまう人もいる。コミュニケーションを取りながら解決していきたい。
- 墨田区の北部と南部で温度差がある。南北の行き来が難しいので、つながりを密にするのが難しく、遮断されてしまう。

テーマ3 「地域活動を始める・続けるために必要なこと」

<窓口や手続きのわかりやすさ>

- 何をするにあたって、窓口を分かりやすくしたら良いのでは。
- 行政のサポートを受けるためにどう伝えたらよいのか、窓口がはっきりしていない。
- 区に資金援助をしてもらう場合に、イベントによってどこの課なのか分からない。また、二つ以上の課にまたがっていると、それぞれで言っていることが違うときがある。
- やりたいことをどこに伝えたら良いかというハブ的な組織があると良い。
- 企画書を行政に出すときに、申請書の書き方が難しい。自分のやりたいことを楽しく、分かりやすく書けるようにできると良い。

<広報の支援>

- SUMKISUMI への書き込みをもっと簡単にできるようにしてほしい。情報を詳しく書き込んだうえで申請し、審査を経て掲載というのはタイムラグがある。情報の新鮮さがなくなったり、イベントの告知が間に合わなかったりと使いづらい。
- 周知、宣伝するには区の広報支援をしてほしい。自分たちで広告をうつのはお金がかかる。区が情報発信の支援をしてくれると、小さなコミュニティが広がるのでは。

<情報の入手>

- 周りを巻き込んで大きな課題に取り組む場合、情報をどうすれば手に入るのか、知った上で自分が使える情報があるかが問題。
- 結局、お互い興味がないと情報を得ることができない。なるべく多くの人に興味を持った時に知ることができるツールが必要。

<区民と行政の協働>

- 行政も区民の団体も、「地域をよくしたい」という根本の目的は同じだが、うまくマッチしない。一つ一つ段階を踏んで学び合い、成長し合わないといけない。
- やりたいことをするときに動きやすいのが民間、動きづらいのが行政。この2つをうまくかみ合わせると大きなことができると思う。
- （行政も区民団体も）お互い待ってはいけない。やっている人は多いので、それをどうつなげていくか。

<その他>

- 指標を設けて、地域貢献の援助が実現できればより価値のあるものが長く続くのではないか。
- 新たに活動を始める際に、現在ある地域コミュニティを活用すると良いのでは。
- 南北の移動が大変との意見があったので、電動自転車の補助金などを行ってはどうか。
- ある人が住み始めて、このまちを好きになって何かを始めてみようと思ってもらえると良い。
- 始めるにあたって、誰かの力を借りずに最低限続けられるところからというやり方もある。